

# ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

東京大学

前期日程

科目

世界史探究

総括

| 試験時間   | 2科目150分 | 難易度(昨年比) | 難化 | 昨年並 | 易化 |
|--------|---------|----------|----|-----|----|
| 満点(配点) | 2科目120点 | 分量(昨年比)  | 増加 | 昨年並 | 減少 |

<総論>

- 大問は例年通り、3題。東京大学も「世界史」から「世界史探究」に出題科目名を変更し、第2問・第3問では「世界史探究」のコンセプトを反映し、共通テストに近い出題が見られた。
- 近年の第1問は、最多字数を更新した2019年(22行)以降は20行(600字)に回帰している。字数的には12~13年の540字以外は、14~18年、20~23年の20行(600字)が一般的である。第1問が2題に分かれた24年は計17行(510字)、25年は計20行(600字)、26年は10行×2問の計20行(600字)で近年の傾向の枠内に収まっている。大論述は相互に関連するテーマを持つ2問・合計17~20行、本年は出されなかったが、資料分析をとまなう場合もあるというのが、令和型の第1問の出題形式として定着したと推測する。
- 第2問は、小論述が4行論述1問、3行論述1問、2行論述4問で計6問、15行(450字)で、25年より30字増となった。ちなみに近年の小論述は、25年と24年は4行論述1問、3行論述2問、2行論述2問で計5問、14行(420字)、23年は5問11行(4行論述はなし)、22年は5問14行、21年は4問13行、20年には6問16行、19年は5問11行、18年は5問16行(加えて第3問に1行論述が出題)で、平均は13~14行だが隔年で増減がある。26年は例年よりやや多めの出題となったが、対応は可能な範囲だろう。また単答問題は2問(うち正誤問題が1問)出題された。単答問題は、24年の4問よりは減少したが21年以降、引き続いて出題されている。得点調整(平均点調整)的な意味合いを持つのであろう、第2問の単答問題は、確実に得点したい。
- 第3問の単答式は10問。うち組み合わせ問題と正誤選択問題が各1問、出題された。第3問での正誤判定問題の出題は2013年以来であった。25年に出了された複数解答の中から1つを答える設問は、26年には見られなかった。

## ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

### <特記事項・トピックス>

●第1問の間(1)は「ムガル帝国の成立とその宗教政策および文化」を10行(300字)で問う。2022年の第1問「8～19世紀までのトルキスタンの歴史」(20行)の類題(2022年の指定語句には「バブル」が含まれた)で、そこで問われた中央アジアのイスラーム化・トルコ化を前提知識として、15世紀末、トルキスタン・イラン・アフガニスタンを支配したティムール帝国の崩壊からムガル帝国の建国の経緯と、それを踏まえて帝国が採用した宗教政策および文化の融合について論述することが求められた。ムガル帝国の宗教政策に関してはアクバルとアウラングゼーブの対比が既出(1991・第1問, 2002・第2問, 2016・第2問)である。

問(2)は「世界の一体化」に関連して「15世紀末から17世紀中頃までのポルトガルのアジア進出」を10行(300字)で問う。過去問では「世界経済の一体化」(2004・第1問), 「東アジアの伝統的な国際関係のあり方と近代におけるその変容」(2020・第1問)で関連事項が出題されている。脳裏にポルトガルのアジア進出関連図を思い浮かべられたかどうか。(1)・(2)を通じて、2015年の第1問「モンゴル時代」に続く時代を論じる設問でもあり、近年の東大第1問の傾向に連なる出題と考えてよいだろう。

●第2問では「地球環境や天然資源と人類」をテーマに「世界史探究」のコンセプトを反映した出題が見られた。問(1)は図版・会話文をもとに設問に答える「探究・共通テスト」型の問題で、小論述2題、記号選択1題が出題された。シトー修道会と11世紀から13世紀のヨーロッパの温暖化を背景とした大開墾, 14世紀の寒冷化がもたらした飢饉などの影響の比較については「11世紀から19世紀までに生じた農業生産とその意義」(2007)で関連事項が出題されている。また問(2)では資料に基づき、単答式と小論述2題が出題された。単答式の『三大陸周遊記(原題・都市の不思議と旅の驚異を見る者への贈り物)』を著したイブン=バトゥータと、ダウ船によるインド洋交易の小論述は一見、平易だがまとめにくい。マムルーク朝の軍事・外交をテーマとした小論述(2行)は、問い自体が曖昧でどの時代・分野まで書けばよいのかわかりにくい。問(3)は16世紀後半、イヴァン4世以降のロシアのシベリア進出と19世紀末のシベリア開発の背景と影響を問うオーソドックスな東大・小論述である。

●第3問は「世界史における女性と男性のあり方」をテーマとした共通テストにも似た単答式問題。近代における女性の政治参加については2018年・第1問でも出題されたが、本問の出題内容が古代から現代までを範囲とした雑題となったのは単答式の限界だろう。

### <合格への学習対策>

東大論述答案を書き上げるためには、①教科書レベルの知識・用語を説明する力、②歴史的経緯の因果関係を説明する力、③何が問われているか、問題文を読んで理解する力、④東大世界史のベースに流れる歴史観を読み取る力、⑤自分の考えを的確・簡潔に伝える力が必要である。教科書・地図・年表・資料集をしっかりと使い、共通テストレベルの基礎知識を疎かにしないこと。次に東大世界史の過去問に徹底的に取り組み、出題傾向やテーマを熟知すること。第2問も特記事項で述べたように、過去問でも多く取り上げられたテーマが出題されている。まずは第2問型の小論述からテーマ別に過去問や実戦模試、例題演習に取り組んで行こう。60～120字程度の小論述を手際よく書けるようになったら、大論述に取り組もう。その際には、全体の「設計図」をメモ書きやフローチャート(図解)、あるいは「表」化する形で視覚化し、これを文章化する練習を早くからやってもらいたい。駿台では春期・夏期・冬期の講習会で、東大論述向けの実戦講座を用意している。また東大論述を主要テーマ別に整理した『テーマ別東大世界史論述問題集(28カ年版)』や、現行教科書に基づき東大の過去問題を全て解き直した『東大入試詳解・世界史・25年』なども参考にしてほしい。

## ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

### 設問ごとの分析

| 問題番号 | 出題形式   | 分野・テーマ(表題)  | 特徴(内容分析・解答上のポイント)  | 問題レベル |
|------|--|---|--|-------|
| 第1問  | 論述<br>10行×2<br>計600字                                       | 問(1)「ムガル帝国の成立とその宗教政策および文化」<br>問(2)「15世紀末から17世紀中頃までのポルトガルのアジア進出」 | 問(1) モンゴル帝国崩壊後の広域交流と展開として、まずはティムール朝治下におけるイラン=イスラーム文化（イル=ハン国で成熟）とトルコ=イスラーム文化（中央アジアで発達）の融合に触れる。その後、遊牧ウズベクによってティムール朝が崩壊した後については、ティムール直系の子孫バーブルのムガル帝国建国、さらにこれを支援したサファヴィー朝との関係性に言及する。いずれもティムール朝の後継国家であり、サファヴィー朝とバーブルはウズベクとの対立を背景に接近した。そこまで言及する字数はないと思われるが、両者の関係性が、後半で論じるムガル帝国の「イラン=イスラーム文化の影響」につながる。指定語句「タージ=マハル」に加え、ウルドゥー語や写本絵画(細密画)の影響を受けたムガル絵画にも触れたい。宗教政策については、宗教寛容政策を採ったモンゴルの伝統が、ティムール朝を経てムガル帝国に継承されたことをふまえ、アクバルの宗教融和政策から、アウラングゼーブの抑圧策への変化を論じる。ここは書けた受験生が多いのではなかろうか。<br>問(2) ポルトガルのアジア進出を問う出題。一見すると平易な基本問題に見えるが、意外に点差がつくのではない。まずヴァスコ=ダ=ガマのインド到達後の記述が、恐らく多くの受験生は「東南アジア→東アジア」へと進んでしまったのではなかろうか。まず、1509年のディウ沖の海戦でのマムルーク朝艦隊撃破などでムスリム商人を抑えたことを論じ、そこからマラッカ、さらにマルク諸島へ進出したことを論じる。ただ、指定語句「マラッカ王国」はやや使いにくい。ポルトガルがマラッカを占領した後も、マラッカ王家はジョホール王国に継承されている。東アジアへの進出について、中国ではマカオを拠点としたが、当初は倭寇と結んでおり、平戸や長崎を拠点とした日明間の中継貿易にも参入した。「ザビエル」という指定語句からカトリック布教と貿易の拡大がセットで進められる点に言及できるかがポイント。これが「世界の一体化」であるという視点が持てるかどうか。最後は、17世紀中頃までという指示から、江戸幕府によるポルトガル船の来航禁止と、オランダにマラッカを奪われてアジア交易から後退した点で締める。 | 標準    |
| 第2問  | 論述<br>2行×4<br>3行×1<br>4行×1<br>(450字)<br>記号選択<br>×1<br>記述×1 | 「地球環境や天然資源と人類」  | 問(1)(a) シトー修道会の修道士たちの活動を論じる。まず画像と会話文の内容で話題になっている修道会が、シトー修道会であることを見抜く必要がある。画像に加え、会話文の「12世紀……フランス」「植物の上に立って」「斧を持って」いるなどの部分から、判断することができる。そのうえでシトー修道士が、①清貧と労働を重視したこと、②森林を切り開いて開墾運動を展開したこと、③農業技術の向上に貢献したことを述べるとよい。なお、2025年度第2回東大実戦模試では第3問でシトー修道会が出題されている。解説とともに復習に取り組んでいた受験生は解きやすかっただろう。<br>(b) 論じる内容は次の3点である。①シトー修道会の活動の   | 標準    |

## ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

|            |                             |   |           |
|------------|-----------------------------|---|-----------|
|            |                             | <p>背景となった当時のヨーロッパの気候傾向として、11世紀以降の温暖化を記す。②温暖化の傾向に変化が生じた時期とは、ヨーロッパの気候が寒冷化した14世紀であり、これを明記する。これを11～13世紀の温暖化と誤解しないように、設問文を慎重に読む必要がある。③14世紀の寒冷化がヨーロッパにもたらした影響として、凶作・飢饉が相次いだことを記したうえで、黒死病の流行もあって人口が減少した点に触れる。さらに人口減少の結果起こった農民の地位向上が、封建社会の動揺につながったことを書くことよ。だろ。う。</p> <p>(c)教皇グレゴリウス1世(位 590～604)の事績として、アのゲルマン諸族へのキリスト布教を進めたことを選択する。イ. 726年に聖像禁止令を發布したことで知られるビザンツ皇帝レオン3世は、グレゴリウス1世とは時代が異なる。ウ. 教皇レオ3世の事績である。エ. 教皇グレゴリウス7世の事績である。</p> <p>問(2)(a)設問文の「14世紀に世界の各地を旅し、旅行記を残したことで知られるモロッコ出身のウラマー」という部分から、イブン=バットウータが正解とわかる。</p> <p>(b)「ココヤシの繊維を用いて作られていた帆船」とはダウ船であり、それを用いて行われた海上交易について論じる。担い手がムスリム商人、交易の中心となった海域がインド洋であることに触れつつ、交易の具体的内容を書くことよ。い。</p> <p>(c)14世紀にアラビア半島西部に影響力を及ぼしていた、「カイロを拠点とする王朝」とはマムルーク朝であり、建国後の対外的な動きについて論じる。①シリアで東方から侵入してきたモンゴル軍(イル=ハン国軍)を撃退したこと、②十字軍最後の拠点アッコンを攻略したこと(シリアから十字軍勢力を駆逐したこと)、③イスラームの聖地であるメッカ・メディナの保護権を得たことを書くことよ。い。</p> <p>問(3)(a)16世紀のロシアが、主にモスクワ大公イヴァン4世(位 1533～84)の時代であることを想起し、イェルマークの遠征によるロシアのシベリア進出について論じる。</p> <p>(b)1890年代のロシアのシベリア開発に関する論述である。「この時期に起こった事柄」とはロシアによるシベリア鉄道の建設であり、「その背景」とはドイツとの再保障条約の更新が拒否されたため、ロシアがフランスに接近して露仏同盟を締結し、フランス資本を導入したことと考える。また「その影響」(シベリア鉄道建設の影響)とは、対外的にはロシアの東アジア(極東)進出が加速したことであり、具体的には三国干渉やその見返りとして東清鉄道の敷設権を獲得したことをしめす。また国内では工業化が進んだものの労働者の生活は苦しく社会主義思想の拡大がみられたことに言及し、最後にロシアの動きを警戒した日本とイギリスが接近したことまで、簡潔に記すこと。</p> |           |
| <p>第3問</p> | <p>記述×8<br/>記号選択<br/>×2</p> | <p>「世界史における女性と男性のあり方」</p> <p>問(1)憲法の下で出版の自由が保障された状況をもたらした事件としてはミドハト憲法の制定なども考えられるが、下線部の直後から、この事件は、「1910年代に女性雑誌が多数刊行された」こと背景となる出来事とわかるので、1910年代直前の出来事と判断し、1908年に発生した青年トルコ革命を答える。</p> <p>問(2)「第一次世界大戦後」の時期のドイツで成立した「男女平等の普通選挙権を明記した憲法」という点から判断する。な</p>   | <p>標準</p> |

## ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  | <p>お正式名称は「1919年8月11日のドイツ国憲法」である。</p> <p>問(3)空欄Aはその前の文から、女性の地位向上や教育の拡大、社会進出、女性参政権などを訴える、世界各地に波及した活動が入るとわかるので、この時期に各地で展開されていたフェミニズム(女性解放運動)と判断できる。問われているのは、1960年代後半から70年代の女性解放運動に影響を与えた黒人差別撤廃運動なので、1950年代より高揚した公民権運動を答える。</p> <p>問(4)空欄Bはその直前から清を建国した民族が入るとわかるので、満洲人を選ぶ。空欄Cは、最初の空欄Cの前からこの民族は纏足の風習を持つこと、2番目の空欄Cの直後から、満洲人の風習である辮髪を強制されていたことがわかるので、漢人を選ぶ。なおパネル2のIは、北京故宮博物院所蔵「乾隆帝及妃威弧獲鹿図」である。</p> <p>問(5)宣教師らを通じてヨーロッパに中国の思想や制度が伝えられると、啓蒙思想家たちは中国とヨーロッパを比較して政治を論じた。その中で科挙を評価し、啓蒙専制君主と交遊したことで知られる思想家はヴォルテールである。彼は、プロイセン王フリードリヒ2世に招かれ親交を持ち、またロシア皇帝エカチェリーナ2世とも文通をした。ヴォルテールが中国の思想を高く評価したことについては、関連した問題が2000年にも出題されており、過去問題の演習を徹底していた受験生にとっては解答が容易であったろう。</p> <p>問(6)指定の時期において、中国人労働者が各地に数多く流入した背景を考えればよい。Aは適当でない。1929年に発生した世界恐慌の前後では、各主要国において企業の業績悪化や倒産により労働者の需要は低下していたと考えられるため、中国人労働者が数多く流入したとは考えにくい。よって、19世紀から20世紀前半にかけて中国人労働者が数多く流入した事情について調べるための資料として、適当ではない。Iは適当である。欧米で奴隷制が廃止されると、各地の鉱山やプランテーション農園で奴隷に代わる労働力の需要が高まり、中国人労働者の流入が進んだ。Uは適当である。第2次アヘン戦争(アロー戦争)後の北京条約では、中国人の海外渡航が解禁され、中国人労働者の海外移住が進んだ。Eは適当である。蒸気船や蒸気機関車の発達による交通革命は、長距離移動と人の移動を容易にし、移民の増加につながった。</p> <p>問(7)前7世紀後半にレスボス島に生まれた、古代ギリシアの女性の叙情詩人は「サッフォー」である。パネル3の抒情詩はサッフォーの詩とされており、岩波文庫『ギリシア・ローマ抒情詩選』呉茂一訳に掲載されているが、作品そのものの知識は受験レベルを超えている。本設問は、「レスボス島」「古代ギリシアの叙情詩人」「女性」のキーワードからサッフォーを想起し、解答すればよい。</p> <p>問(8)中国史上で唯一の女帝は「則天武后(武則天)」が正しい。彼女は息子の中宗・睿宗を続けて廃位し、690年に皇帝に即位した。国号を周と改め「聖神皇帝」と称した。本設問では「皇帝となった人物の名」が問われたことから、皇帝としての名称は解答として相応しくないと判断した。</p> <p>問(9)フランスで定められた、近代市民社会の原則をまとめた民法典は、「ナポレオン法典」が正しい。ナポレオン法典は1804年に制定され、法の下での平等・私有財産の不可侵・契約の自由など近代市民社会の原則を盛り込んだ近代的民法典</p> |
|--|--|--|--|--|

## ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
|  |  |  | <p>である。しかし一方では、「妻は夫に服従する義務を負う」ことが明記されるなど、封建的な男性優位の家父長権が残存した。日本をはじめ各地の民法典に影響を与えたことから、「男性優位の役割分担」が近代社会で法的に定着する背景となった。なお、ナポレオン法典が家父長権を規定したことは本年の共通テスト「歴史総合、世界史探究」の第3問、問2で問われたものであり、受験生には既視感があっただろう。また「(フランス)民法典」と解答した場合、許容されるのかどうか、出題者に聞きたいところだ。</p> <p>問10)軍隊だけでなく国力の全てを動員する形態をとるようになった戦争は、「総力戦」が正しい。総力戦は英語で「Total War」と書かれ、軍事力だけでなく、政治的結束のうえで経済力や国民動員力など、総力をあげて戦うものである。女性は非戦闘員であるが、銃後の守りとして生産活動などを担ったことが、第一次世界大戦末期から戦後にかけて女性参政権が実現する背景となった。</p> |
|--|--|--|--|

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。